

県政レポート 歩く眼 第31号

# 永瀬ひでき

ながせ



## 一般質問特集

### 屋内50mプールの整備について

#### 未来を切り拓く、地域と県政をつなぐ掛け橋として

今号では、県議会本会議で県に質問・要望した「屋内50mプールの整備について」の内容（概要）を報告させていただきます。

## スポーツ都市戦略による活性化に向けて

### 永瀬秀樹の質問概要

埼玉県は、海なし県でありながら、水泳競技において常に全国トップレベルの成績を誇り、オリンピックをはじめ多くの大会で優秀な成績を残した選手を多数輩出してきた「水泳王国」です。

しかし残念ながら、公立の屋内50mプールがなく、過去二度、本県で開催された国民体育大会の際も川口市の屋外プールが競技会場となる事を余儀なくされるなど、天候に左右されず競技に集中できる屋内50mプールの建設は、埼玉県民の悲願です。

県としても整備に向け、粛々と検討を進めていただいているようですが、その進捗状況はいささかスピード感を欠いているようにも思われます。



「東京2020オリンピック・パラリンピック」後を見据え、国民体育大会及びインターハイなどにおける水泳力強化や県内水泳環境の整備のため、屋内50mプールの設置が早期に実現することを願い、以下3点について質問しました。

## ■整備に向けた検討の進捗状況について

県は、昨年度、基本計画の策定に着手し、屋内50mプールの設置検討に向け、基本計画の策定支援や様々な調査等をするため、民間会社に業務委託を行っています。

規模、設備、候補地、概算事業費、ランニングコスト、民間活力の導入など、事業手法について、どのような結果が示されたのか伺いました。

### 県の答弁

県では現在、国内主要大会が開催でき、最先端の技術で競技力向上を推進するとともに、県民の体力・健康づくりもサポートできる屋内50mプール整備の検討を進めています。

これまで大学の有識者や競技団体の関係者などで構成する検討会議を立ち上げて専門的な意見を伺ったり、民間事業者から事業手法などのヒアリングを行ってきました。

議員お話し業務委託は、県が50mプール整備の基本計画を定めるのに先立ち、法律上の条件や事業手法の可能性などについて様々な課題の整理を行うために実施したものです。その結果、規模は50mのメインプールのほか、25mのサブプールや相当規模の駐車場、円滑な大会運営のための様々な部屋の確保が必要であるとの報告を受けました。

設備については、複数のカメラで泳ぎを撮影することでフォームを確認できるシステムや、流水の中を泳ぐことで効果的なトレーニングができる流水プールなどの提案がありました。また、大会を開催していない時に子どもから高齢者まで幅広く県民に有効活用していただくためには、プールの床を可動式にして深さを調整可能にすることが有効との報告も受けています。

次に、候補地については、活用可能な県有地の調査結果や議会からいただいた質問を踏まえ、川口市の神根運動場と上尾運動公園を調査対象とし、県内各地からのアクセスや、土地や周辺道路の状況、スポーツ施設の集積状況などの現状について調査をしました。

概算事業費やランニングコストについては、他県の事例を調査したところ、立地する場所や、規模、機能、事業手法によって様々であるとの報告を受けています。また、民間のノウハウや資金を活用するPFI手法の可能性についても検討をしています。

他県の事例では、PFI手法を採用した場合、県が直接整備する場合と比較して、事業費を20%前後削減できたという報告もありました。

## ■基本計画の策定状況について

一般的に、実際の施設整備には、基本計画策定後、実施計画、設計、施工、事業運営の整備など、おおむね4年から5年の準備段階を経ることが必要です。今年度は実施計画の策定と事業手法の調査・検討に向け、27,832千円の予算を計上し、既に委託業者も選定され、納品時期も示されています。

しかし、現時点では、実施計画を作るための基本計画がまだ策定されておらず、実施計画の策定に取り掛かれない事態となっています。

基本計画はいつまでに策定するのか、なぜ決まらないのか、課題は何か、屋内50mプールの整備は、いつ頃の完成を想定しているのか、見通しについて伺いました。



### 県の答弁

現在、こうした調査結果などをもとに、県として整備する施設の規模や機能、事業手法、整備地などについて、比較検討を進めています。

基本計画については、これらの課題を整理し方向性を見定めた上で、できる限り速やかに策定したいと考えています。

また、プールの完成時期については、事業手法によって違いがありますが、PFI手法を採用した場合には、実施計画策定後から完成まで少なくとも5年程度は要すると考えています。

## ■候補地選定に関する県の考え方について

基本計画の策定には、候補地、施設の機能、規模など、施設の概要を定めることが必要と考えます。

候補地については、川口市から誘致の意向があると存じています。川口市の神根運動場周辺は、隣接した公園と合わせ約12.9haの建設候補地の一つであり、電車であればJR武蔵野線東浦和駅から徒歩圏内にあり、車でも首都高速道路や東京外環自動車道のインターから近距離にあり、交通利便性が非常に高くなっています。周辺の交通渋滞も少なく非常に便利な立地条件です。



神根運動場

また、川口市からは、埼玉県の施設が誘致されるのであれば、屋内プール施設配置を前提とした周辺の土地利用の計画を考えていくと聞き及んでいます。

埼玉県水泳連盟創設以来、多大なる貢献をし、水泳に縁が深い川口市において誘致が実現すれば、東京に近い立地や交通利便性を生かし、水泳というスポーツによる新たな都市

のブランディングを展開することで、来年の東京オリンピック・パラリンピック後に続く新たなスポーツ都市戦略による活性化も期待できます。

県は、現在、候補地の選定についてどのように考えているのか、選定に際し重視するポイントは何か、また、都市の将来戦略に与える影響などを考慮しているのかについて質問しました。



## 県の答弁

候補地選定に当たっては、先ほど申し上げた県内各地からのアクセスの良さなどのほか、整備にかかる経費、周辺の施設などとの連携の可能性や収益性の確保など、あらゆる課題を総合的に勘案して検討を進めています。

議員ご指摘のとおり、プールの整備は周辺のまちづくりにも大きな影響を与えることから、そうした観点もしっかり考慮していく必要があると考えています。

県としては、県内全ての県民の皆様にとって使いやすい、魅力ある屋内50mプールとなるよう、整備を進めてまいります。

川口市出身の知事が誕生し、川口市への屋内50mプール誘致が有力と思われるが、第三の新たな候補地が浮かび上がるなど、候補地の選定は依然、混沌としています。誘致が確実なものとなるよう、地元・川口市を代表する県議会議員として県にしっかり働きかけてまいります。

あなたのご意見をお聞かせ下さい。

自民党県議団 県政調査事務所

〒332-0012 川口市本町4-8-12-102 Tel.048-223-6050 Fax.048-223-6170